

三菱重工グループ°ESG説明会資料

2023.3.14

三菱重工業株式会社

グループ戦略推進室 サステナビリティ推進室長 増永 路子

1. サステナビリティの取り組み
2. マテリアリティの内容及び進捗状況
3. ガバナンス体制
4. 人権デューデリジェンスの取り組み
5. 三菱重工グループの人的資本投資

本日のESG説明会では、以下の**赤字**のテーマについてご説明いたします。

マネジメント

- **フレームワーク**
- **ステークホルダー**
- **マテリアリティ**

E 環境

- 環境マネジメント
- 気候変動
- 水リスク
- 生物多様性
- 汚染・廃棄物

S 社会

- 労働慣行
- 労働安全衛生
- **人的資本**
- **人権**
- 社会貢献活動

G ガバナンス

- **コーポレートガバナンス**
- リスクマネジメント
- コンプライアンス
- 製品責任
- カスタマーリレーションシップ
マネジメント
- イノベーションマネジメント
- サプライチェーンマネジメント

1. サステナビリティの取り組み
2. マテリアリティの内容及び進捗状況
3. ガバナンス体制
4. 人権デューデリジェンスの取り組み
5. 三菱重工グループの人的資本投資

■ 三綱領(三菱グループの経営理念)

◇ 三菱の歴史の中で、連綿と引き継がれてきた精神を表したもので、1920年の三菱四代目社長岩崎小彌太の訓諭をもとに1934年に制定

所期奉公 = 期するところは社会への貢献

事業を通じ、物心共に豊かな社会の実現に努力すると同時にかけがえのない地球環境の維持にも貢献する

処事光明 = フェアプレーに徹する

公明正大で品格のある行動を旨とし、活動の公開性・透明性を堅持する

立業貿易 = グローバルな視野に立つ

全世界的、宇宙的視野に立脚した事業展開を図る

■ 社是(三菱重工の経営理念)

◇ 三綱領の発想に基づき、1970年に三菱重工の社是として定めたもの
◇ 会社の方針を示すものとして広く社員に親しまれている

一、顧客第一の信念に徹し、社業を通じて社会の進歩に貢献する

一、誠実を旨とし、和を重んじて公私の別を明らかにする

一、世界的視野に立ち、経営の革新と技術の開発に努める

■ CSR行動指針

- ◇ CSR（企業の社会的責任）の理念を踏まえて、事業活動を行う際の心構え「CSR行動指針」を2007年に制定
- ◇ 社員自らによる指針づくりを目指し、若手・女性社員を募って検討し、ボトムアップで構築
- ◇ 「社業を通じて社会の進歩に貢献する」という当社社是を、社員の行動においてCSRとの関連性をイメージさせるもの

わたしたちは、この地球にたしかな未来を実現するために、

地球との絆

緑あふれる地球を環境技術と環境意識で守ります。

社会との絆

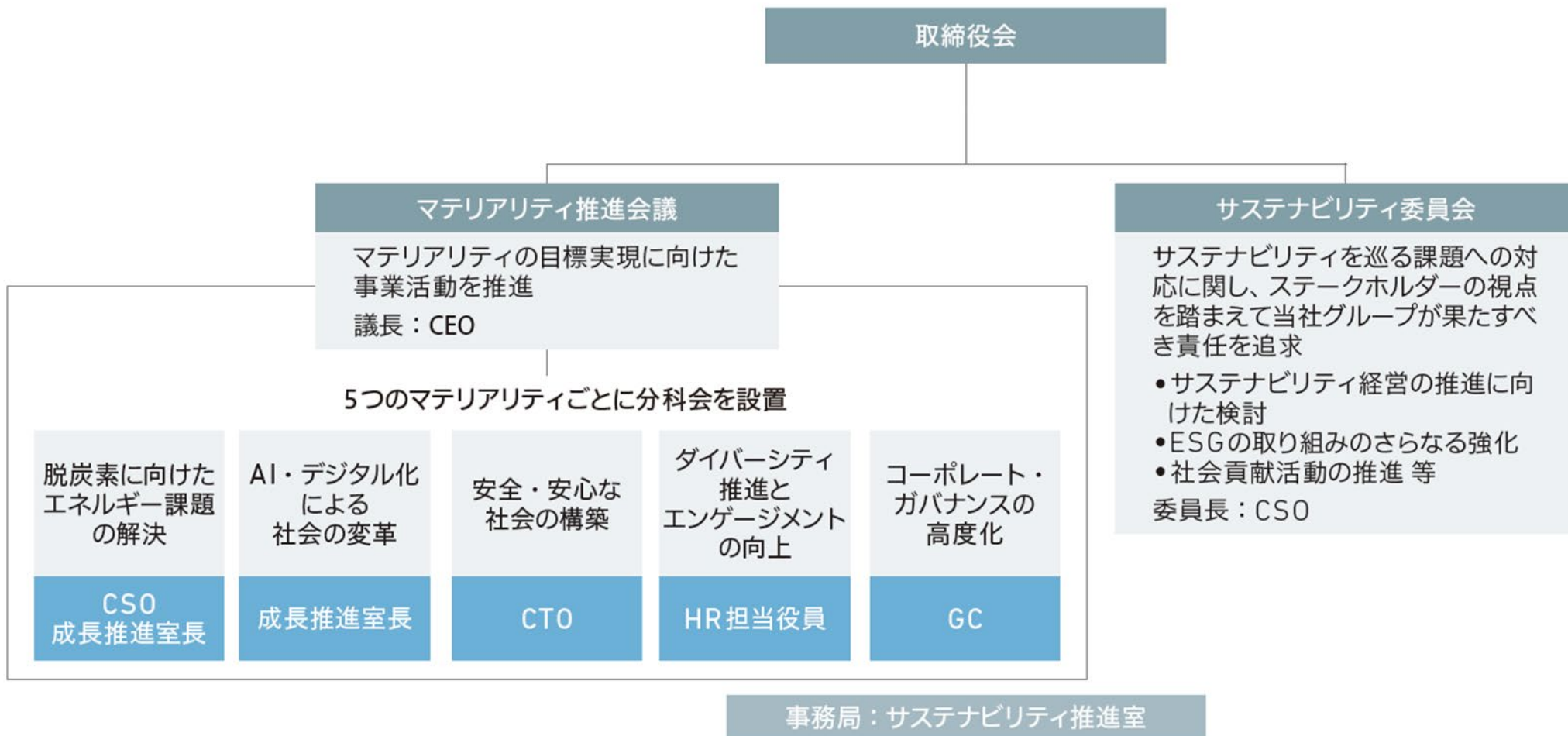
積極的な社会参画と、誠実な行動により、社会との信頼関係を築きます。

次世代との架け橋

夢を実現する技術で、次世代を担う人の育成に貢献します。

「社是」の精神や「CSR行動指針」に基づき、以下の体制のもとサステナビリティを推進

▶ サステナビリティ推進体制図



1. サステナビリティの取り組み
- 2. マテリアリティの内容及び進捗状況**
3. ガバナンス体制
4. 人権デューデリジェンスの取り組み
5. 三菱重工グループの人的資本投資

5項目を経営上の重要課題と特定し、若手・中堅社員が課題ごとの測定指標原案を策定

マテリアリティ 1

脱炭素社会に向けたエネルギー課題の解決 【全社目標】

- 三菱重工グループのCO₂排出削減
Scope1・2を、2040年Net Zero
- 2040年までにバリューチェーン全体を通じた社会への貢献
Scope3+CCUS削減貢献を、2040年Net Zero

マテリアリティ 2

AI・デジタル化による社会の変革 【全社目標】

- 顧客や利用者に寄り添った便利でサステナブルなAI・デジタル製品の拡充
- AI・デジタル化により適切かつ効率的に電力需給を管理する未来型エネルギーマネジメントで、持続可能な社会へ貢献
- クリエイティブな製品を生み出すための環境づくり

マテリアリティ 3

安全・安心な社会の構築 【全社目標】

- 製品・事業/インフラのレジリエント化
- 製品・事業/インフラの無人化・省人化
- 三菱重工全製品の継続的なサイバーセキュリティ対策の深化

マテリアリティ 4

ダイバーシティ推進と エンゲージメントの向上 【全社目標】

- 多様な人材による新たな価値創出
- 安全で快適な職場の確保
- 社員を活かす環境づくりと健やかで活力にあふれ社会に貢献できる人材づくり

マテリアリティ 5

コーポレートガバナンスの高度化 【全社目標】

- 取締役会審議のさらなる充実
- 法令遵守と誠実・公平・公正な事業慣行の推進
- CSR調達のグローバルサプライチェーンへのさらなる浸透
- 非財務情報の説明機会創出

マテリアリティ 1 脱炭素社会に向けたエネルギー課題の解決

- 【全社目標】 ■ 三菱重工グループのCO₂排出削減 Scope1・2を、2040年Net Zero
- 2040年までにバリューチェーン全体を通じた社会への貢献 Scope3+CCUS削減貢献を、2040年Net Zero

マテリアリティ
1

カーボンニュートラル
宣言

 三菱重工 | MISSION NET ZERO

目標年	当社グループのCO ₂ 排出削減 Scope1,2	バリューチェーン全体を通じた社会への貢献 Scope 3 + CCUS削減貢献
2030年	▲50% (2014年比)	▲50% (2019年比)
2040年	Net Zero	Net Zero

開発
メニュー

エネルギーマネジメントシステム

高砂水素パーク

カーボンニュートラル工場

原子力 革新軽水炉

水素製造装置

バイオマスガス炉

水素ガスタービン

小型CO₂回収装置

※Scope1,2：算出基準は、GHGプロトコルに準じる。
Scope3：算出基準は、GHGプロトコルに準じる。但しこれに独自指標のCCUSによる削減貢献分を加味。

GHG：温室効果ガス (Greenhouse Gas)
CCUS：Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage

2. マテリアリティの内容及び進捗状況 - マテリアリティ1の進捗状況

マテリアリティ 1

カーボンニュートラル工場：
三原製作所
(広島県三原市)

2023年度末に完全なカーボンニュートラル工場を実現

MISSION NET ZEROの実現性を示し、年間排出量10千ton-CO₂ニュートラル化する

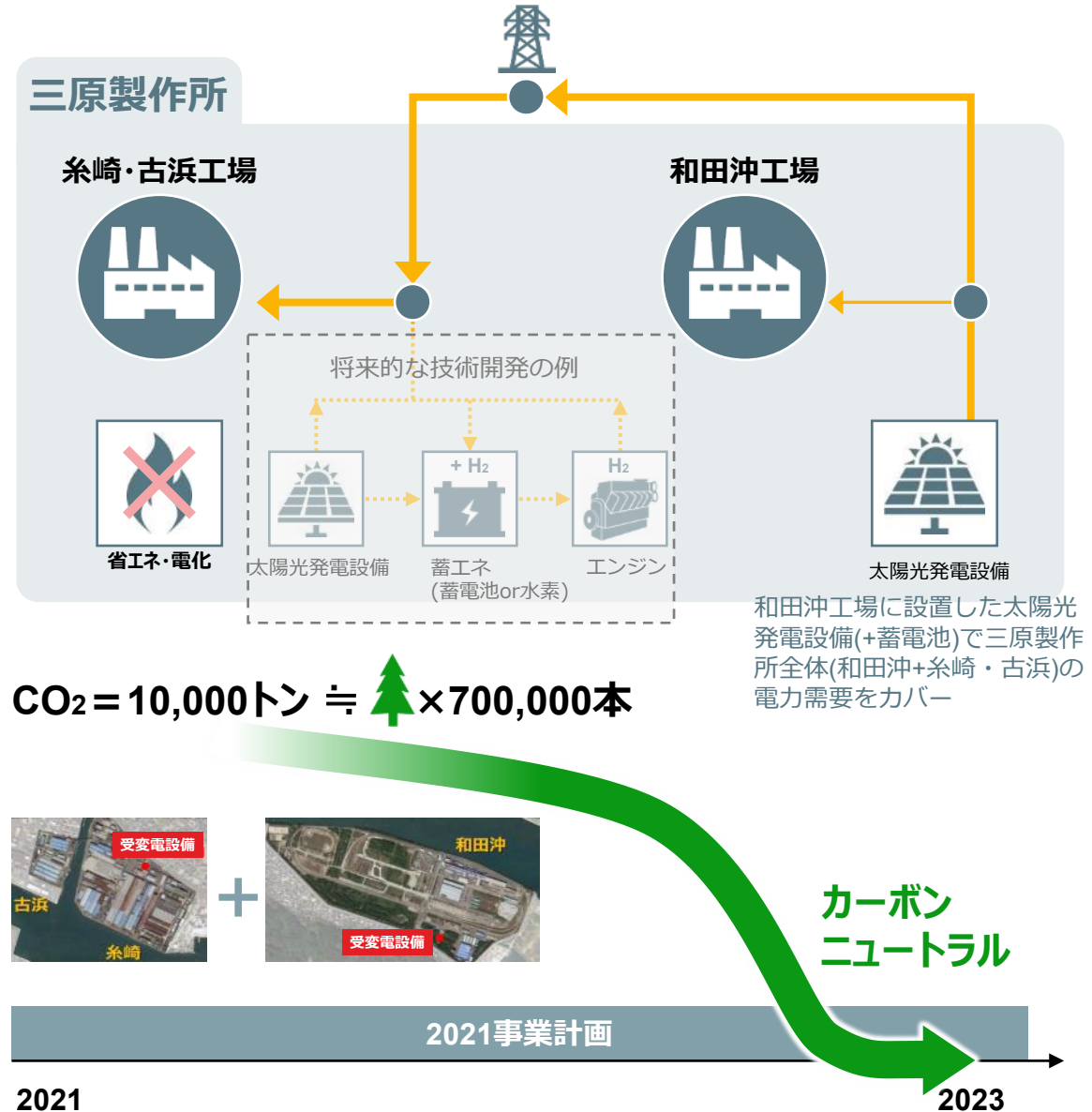
■太陽光発電設備を建設

工場敷地内に三原製作所の電力需要に相当する太陽光発電設備を建設

Scope2の脱炭素化を自社用電源で実現

■技術開発フィールドとして活用

省エネ、電化、燃料展開、再生可能エネルギーを挑戦的に導入し、技術やカーボンニュートラルソリューション開発のフィールドとして活用



2. マテリアリティの内容及び進捗状況 - マテリアリティ1の進捗状況

マテリアリティ 1

製品開発① 高砂水素パーク： 高砂製作所 (兵庫県高砂市)

2023年度に稼働開始

水素製造から発電までの技術を一貫して検証

■水素ガスタービン実機実証

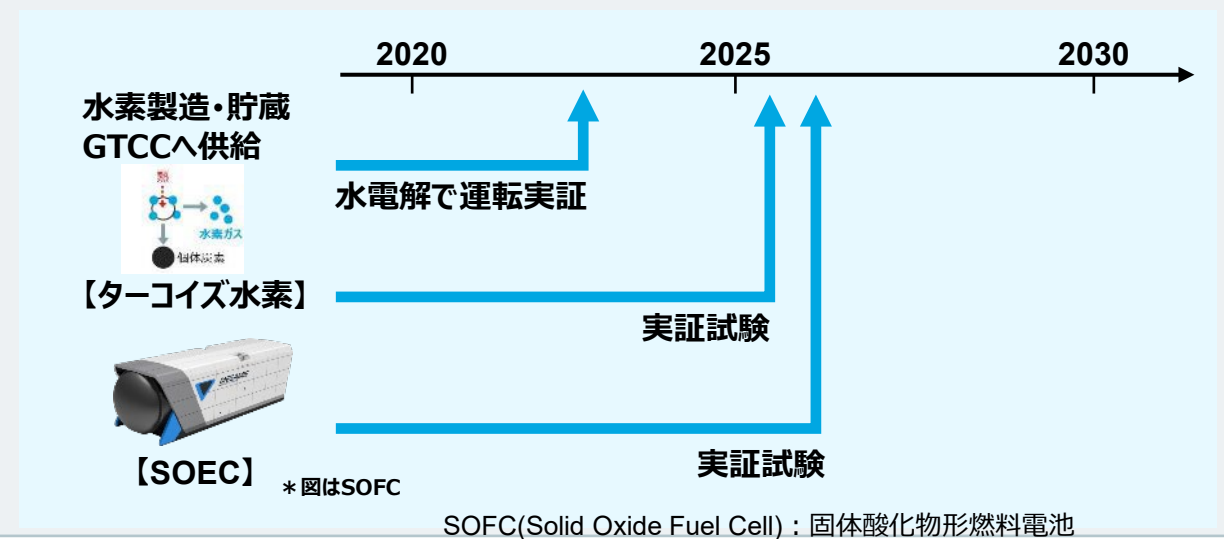
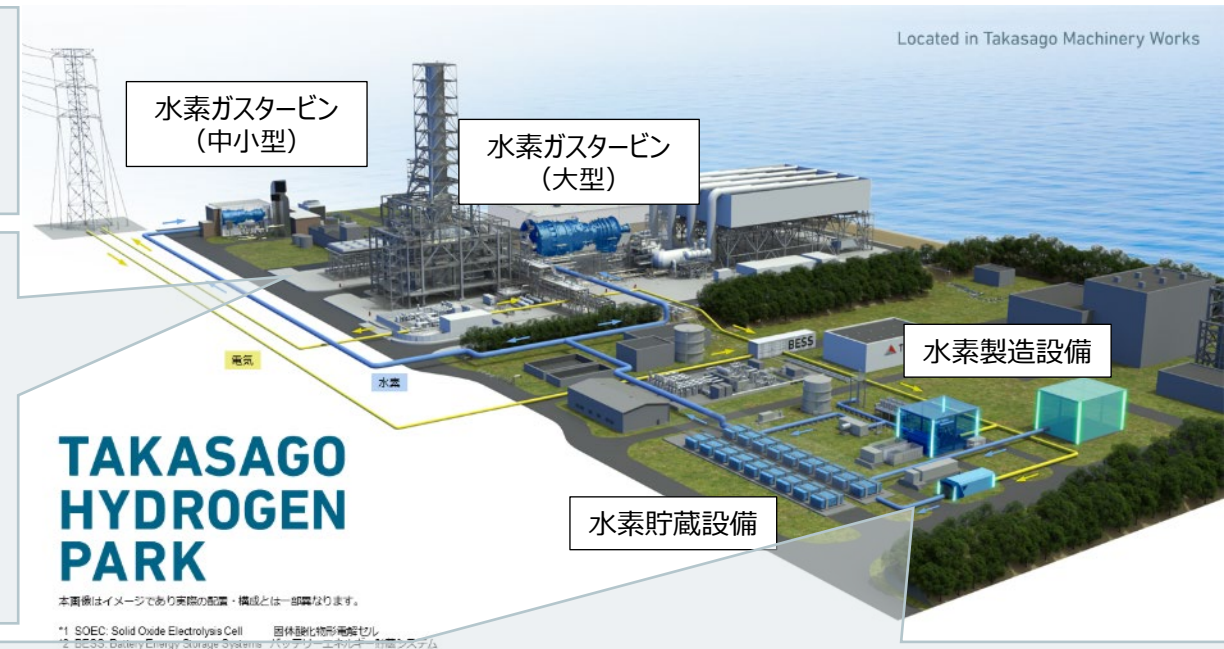
- 大型ガスタービンで30%混焼、中小型では100%専焼の製品を2025年の商用化に向けて検証
- 大型ガスタービン燃焼試験でEUタクソミーに合致する水素50%混焼達成

■既存実証拠点到水素製造・貯蔵設備を追設

- 水電解、ターコイズ水素*、SOEC**等、次世代水素製造技術の試験・実証を順次実施

*ターコイズ水素：メタンを水素と固体炭素に熱分解

**SOEC(Solid Oxide Electrolyzer Cell)：高温水蒸気電解



製品開発② 脱炭素製品

商用初の小型CO₂回収装置が稼働開始

太平電業株式会社の西風新都バイオマス発電所に納入した商用初の小型CO₂回収装置が2022年6月から稼働を開始

回収したCO₂は、発電所構内の農業ハウスへ供給され農作物の成育に利活用することにより、地球温暖化防止に貢献



出典：プレスリリース（2022年6月30日、2023年2月1日）

原子力 革新軽水炉の開発

2030年代半ばの実用化を目指し、高い経済性に加え、革新技術の採用により世界最高水準の安全性を実現する革新軽水炉（SRZ-1200）を開発中

従来炉と比べて出力調整機能も強化することで、再生可能エネルギーの発電量変化等に柔軟に対応可能な運転性を確保



出典：三菱重工グループのサステナビリティ経営 紹介資料、カーボンニュートラルハンドブックをもとに作成

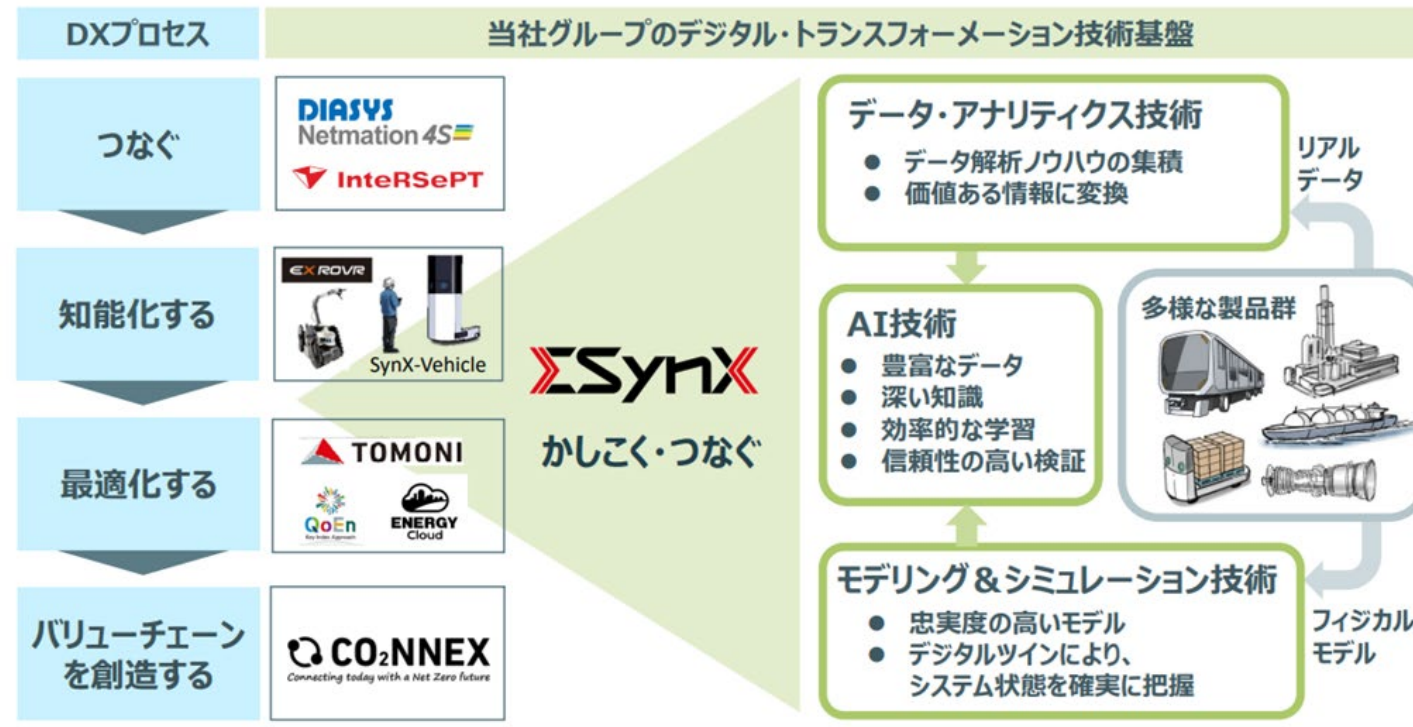
マテリアリティ2 AI・デジタル化による社会の変革

- 【全社目標】
- 顧客や利用者に寄り添った便利でサステナブルなAI・デジタル製品の拡充
 - AI・デジタル化により適切かつ効率的に電力需給を管理する未来型エネルギーマネジメントで、持続可能な社会へ貢献
 - クリエイティブな製品を生み出すための環境づくり

マテリアリティ
2

ΣSynX (シグマシンクス)

製品群とデジタル技術を
“かしこく・つなぐ”



ΣSynX : **さまざまな機械システムを同調・協調**させる三菱重工の標準プラットフォーム、機械システムの知能化により最適運用を実現するデジタル・テクノロジーを集約

製品開発 倉庫物流向け 自動ピッキング ソリューション

ピッキング作業のノウハウを「ΣSynX」で実装

- 「ΣSynX」により複数の機械を同調・協調させ、物流現場でのお客様の自動化・省人化をサポート

複数の無人フォークリフト(AGF)、無人搬送車(AGV)、パレタイザーを「ΣSynX」によって効率的に連携させて搬送・ピッキング回数を削減、ピッキング工程の最適化とスループット向上を実現

出典：プレスリリース（2022年8月31日）

- キリンググループと自動ピッキングソリューションの共同実証を開始

当社YHH内の実証設備において、2022年11月よりキリンビバレッジ株式会社、キリンググループロジスティクス株式会社と共同で、物流オペレーターにとって負荷の高い荷役作業が求められる飲料倉庫への自動ピッキングソリューション導入に関する実証を開始

出典：プレスリリース（2022年11月21日）

パレタイザー：製品を自動で整列させてパレット上に積み付ける装置

YHH (Yokohama Hardtech Hub)：当社が横浜・本牧で運営するものづくりの共創空間



YHH内の実証施設「LogiQ X Lab」

マテリアリティ3 安全・安心な社会の構築

- 【全社目標】
- 製品・事業/インフラのレジリエント化
 - 製品・事業/インフラの無人化・省人化
 - 三菱重工全製品の継続的なサイバーセキュリティ対策の深化

マテリアリティ
3

サイバーセキュリティ の取り組み 「InteRSePT®」

防衛で培ったセキュリティ技術のデュアルユース展開

「InteRSePT®」で制御システムにおけるサイバーインシデントを検知・対処

重要インフラや製造設備の制御システムをサイバー攻撃から守るソリューション「InteRSePT®」

当社独自のふるまい検知によって、制御信号への標的型サイバー攻撃の検知が可能になり、安心・安全な社会の実現に貢献



マテリアリティ4 ダイバーシティ推進とエンゲージメントの向上

- 【全社目標】
- 多様な人材による新たな価値創出
 - 安全で快適な職場の確保
 - 社員を活かす環境づくりと健やかで活力にあふれ社会に貢献できる人材づくり

マテリアリティ5 コーポレートガバナンスの高度化

- 【全社目標】
- 取締役会審議のさらなる充実
 - 法令遵守と誠実・公平・公正な事業慣行の推進
 - CSR調達のグローバルサプライチェーンへのさらなる浸透
 - 非財務情報の説明機会創出



以降のスライドで
ご説明いたします

1. サステナビリティの取り組み
2. マテリアリティの内容及び進捗状況
- 3. ガバナンス体制**
4. 人権デューデリジェンスの取り組み
5. 三菱重工グループの人的資本投資

コーポレートガバナンスに関する取り組み

- 「取締役会審議のさらなる充実」に向けて

進捗モニタリング指標(KPI)*

■ 取締役会に占める独立社外取締役の割合50%以上

2023年3月時点で取締役会に占める独立社外取締役の割合50%以上を維持（12名中6名）

進捗モニタリング指標(KPI)*

■ 取締役会の実効性を毎年評価し、実効性を確保・向上させる

全取締役に対するアンケート調査及び外部機関によるインタビューを含む取締役会全体としての実効性に関する分析・評価を年に1度実施

前年度(2021年度)の評価結果を踏まえ、取締役会における議論の拡充（成長戦略及び人事戦略に関する中長期視点での議論等）や、社外取締役と従業員との対話及び拠点視察の機会充実等に取り組んでいる

* マテリアリティ5「コーポレートガバナンスの高度化」の全社目標「取締役会審議のさらなる充実」の進捗モニタリング指標(KPI)

1. サステナビリティの取り組み
2. マテリアリティの内容及び進捗状況
3. ガバナンス体制
- 4. 人権デューデリジェンスの取り組み**
5. 三菱重工グループの人的資本投資

人権デューデリジェンスの実践体制

人権デューデリジェンスタスクフォース

2021年9月から2022年3月にかけてサステナビリティ委員会傘下に「人権デューデリジェンスタスクフォース」を設置し、当社グループにおける人権デューデリジェンス実践体制を決定

三菱重工グループ人権方針 (https://www.mhi.com/jp/sustainability/social/pdf/mhigroup_human_rights_policy.pdf)

2021年12月、従来の「三菱重工グループ人権方針」をOECD指導原則等に則った形に見直し公開（パートナーにも周知）

人権デューデリジェンス連絡会

2022年4月より人権デューデリジェンスの取り組みを本格化するとともに「人権デューデリジェンス連絡会」を設置し、計画策定、フォロー及び情報共有を実施中

同連絡会にはコーポレート部門に加え各事業部門も出席し、全社体制で取り組みを推進

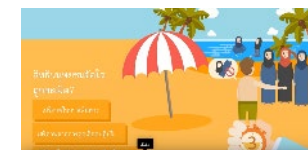


社員への人権教育 サプライチェーンにおける人権デューデリジェンス

社員への人権教育

新規教育コンテンツとして、全編動画のeラーニング「三菱重工グループにおける人権尊重」を開発

- 実施期間： 2022年12月～2023年1月
- 内容： Lesson1 一般的な人権に関する趨勢を紹介
Lesson2 当社グループにおける人権尊重の取り組み等を紹介
- 対象： グループ全社員
- 対応言語： 日・中・英・泰の4か国語



eラーニング「三菱重工グループにおける人権尊重」
(タイ語バージョン)

サプライチェーンにおける人権デューデリジェンス

パートナーに対し事業活動における人権尊重を要求

当社標準ジェネコンに、人権関連の項目を含む「三菱重工グループ サプライチェーンCSR推進ガイドライン」の遵守に関する要求を織り込み

アンケート調査+現地調査による人権デューデリジェンス

2022年度、リスクアセスメントで高リスク地域として特定された東南アジアのサプライヤ25社に対し、人権アンケート調査を実施
その中で自己採点スコアが相対的に低かった5社に対しては現地調査を行い、ヒアリングを通じて留意すべき人権リスクはないことを確認

2023年度以降、人権デューデリジェンスの対象範囲を拡大予定

1. サステナビリティの取り組み
2. マテリアリティの内容及び進捗状況
3. ガバナンス体制
4. 人権デューデリジェンスの取り組み
- 5. 三菱重工グループの人的資本投資**

人的資本の考え方

- 当社グループは人材を「資本」として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上に繋げていく。そのための取組として経営戦略と連動したHR戦略を推進していく。具体的には、成長事業への人的リソースのシフトを重点項目としつつ、経営人材を含む人材育成・獲得、エンゲージメントの向上、組織・プロセスの高度化を中長期的な視点で進めていく。

三菱重工グループの人材育成方針

- 大切にしている価値観



自律

- 一人一人が自分自身の役割を認識し、一人称で仕事に向き合い、自ら考え、プロとして責任を持ってやり遂げます。
- 主体的に課題を設定し、解決のために考え抜いて行動します。



協働

- 未来志向で協力し合い、長い歴史の中で培ってきた技術の更なる発展を通じ、社会に貢献します。
- 互いに尊重し合い、高め合いながら、チームで成果を出します。



挑戦

- 前例に捉われず、本質を追求し、最後まであきらめずに挑戦し続けます。
- 自ら周囲に働きかけ、チャンスを作り、成長し続けます。

- 人材育成の考え方

- ・ グループ員一人一人の成長が三菱重工グループの持続的な発展の源泉と位置付け、中長期的な視点で計画的・継続的に人材育成に取り組む
- ・ 対話を通じて成長課題を特定し、目標を定め、日々の業務での経験とフィードバック(OJT)、それを補完する研修・自己啓発(Off-JT)を通じた成長とキャリア形成の支援を行う

ダイバーシティ&インクルージョンの推進

- 「多様な人材による新たな価値創出」に向けて

- ・ 多様な経験、国籍、文化を持つ数万人からなる当社グループにとって、多様性は大切な財産
- ・ 特に国内においては、進捗モニタリング指標(KPI)を設定し、女性活躍推進に向け、4つの重点テーマに取り組中

進捗モニタリング指標(KPI)*

- 2030年までに役員に占める女性比率を30%以上にする
- 2030年までに管理職に占める女性比率を2倍(2021年度比)にする

テーマ	これまでの取り組み事例
①女性社員数の拡大	・ 女性採用強化（理系女子向けの工場見学、座談会、パンフレット作成） ・ 技術系採用における女性比率10%を目標とした活動
②キャリアを中断させない仕組みづくり	・ 家庭と仕事の両立を支援する体制整備・強化 ・ 育児支援セミナー開催
③女性管理職の計画的な育成	・ 社外団体主催の女性管理職研修への派遣 ・ 昇格候補者の育成フォロー強化
④風土醸成	・ 管理職の意識改革（各種説明会、研修） ・ 社員全体の意識改革（社員インタビュー紹介等の情報発信）

当社の社是は、「**社業を通じて社会の進歩に貢献する**」ことであり、
100年以上にわたって社会価値と企業価値の同期を実践してまいりました。

これからも「**世界的視野に立ち、経営の革新と技術の開発に努め**」、
複雑化する社会課題の解決に挑戦していきます。

ご清聴ありがとうございました。

